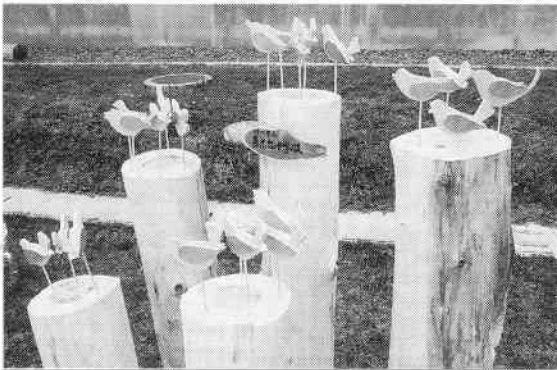
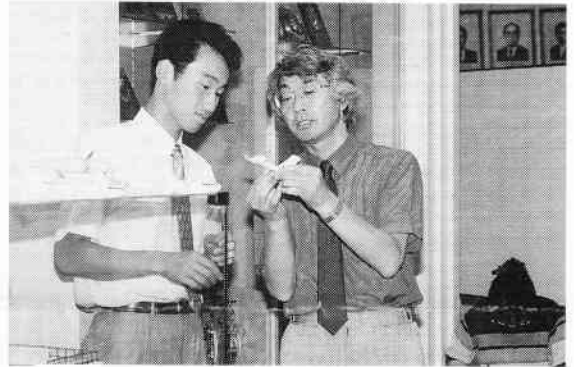


# 第43回旭川大会特集



目次

旭川大会を終えて……………2・3

旭川大会に参加して……………4・5

わたしの学校・わたしの実践……………6

論点……………7

サクラクレパス・あとがき……………8



北海道  
造形教育  
連盟報

No. 96 1993.12.20 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒005 札幌市南区真駒内泉町3丁目

札幌市立真駒内南小学校 ☎011-581-0221

事務局長 白井 罔 毅

## 第43回「旭川大会を終えて」



### 新しい創造の風を もとめて

旭川大会実行委員会

#### 《はじめに》

「旭川大会は暑い。」のジンクス通り、本大会も二日間好天のうちに終わることができました。全道各地から600人を越える大勢の先生方のご参加のもと、熱のこもったご提言、ご討議をいただきました。外の暑さもさることながら、この「熱さ」を大変ありがたく思いました。感謝申し上げる次第です。

過去42回の長い歴史の中で、諸先輩が築いてこられた成果の上にたつてのささやかな実践ではありましたが、子どもたちの明日への創造活動の一助にしていただけなら、この上ない喜びです。

事務局不慣れのため、運営の面その他でご迷惑をおかけしたと存じますが、一丸となって準備させていただいた旭川会員の意をお汲み取りいただき、お許しいただきたいと存じます。

大会成功のため、ご支援、ご協力いただきました連盟本部及び各支部の先生方、大会を盛り上げてくださった全道各地の先生方に、改めて心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

#### 《大会をふり返って》

##### ●楽しさあふれる授業を求めて

私たちが求め、構築してきた授業は、子供たちが造り出す、子供らしさが生きる、楽しさに満ちた授業でした。

お	……	おお!	—————	感動
も	……	もしや?	—————	期待
い	……	いいね!	—————	共感
が	……	がんばる!	—————	集中
い	……	いきつもどりつ	—————	試み
き	……	気に入る	—————	自信
る	……	広げる	—————	深まり

子どもの“思い”が授業の中に流れ続けていることが大切だと考えます。一人の100歩より100人の一歩を目指して、私たちが求める授業に向けて努力していきたいと思えます。支援と評価の一体化など多くの課



題が残されていますが、私たちは、今求められている授業像について、一つの提起ができたのであればうれしく思います。

#### 授業者の声

「子どもが生きる楽しい授業だったよ」との参加者の励ましに、ちょっと自信が持てました。

#### ●熱気あふれる分科会

- ※興味・関心・意欲を高める題材提示の方法は…
- ※思いを生かし、広げる支援と評価のあり方は…
- ※選択履修における美術のあり方は…
- ※生活の中に生きる図工美術とは… 等々

これらは、今まで、実践を通して培ってきた図工美術教育を、新しい学力観にたち、どこを転換し、どう育てていくか、参加くださった先生方の切実な課題として熱心に討議されたものです。

この中で、一人一人の子どもの個性や創造性を伸ばす授業や、子供らしい、しかもその子らしい造形的な創造活動の支援を工夫していくことの重要性が確認されました。

どの分科会も、大勢の先生方の参加をいただきました。特に中学校の総合分科会では、100名を越える先生方の熱気であふれました。今後の分科会の持ち方が話題になりました。

#### 参加者の一言

図工の指導の方法、考え方の多様性などを自分なりにとらえることができました。

子供の思いを広げる時に、教師がどのようにかわったらよいか、と言う点で勉強させていただきました。



### ●自ら楽しむ造形広場

この広場は、身近な材料を使って、子どもの心をより豊かに拓く授業に生かせるものを、そして、参加の先生方にも自ら楽しんでいただくということで計画されました。

1時間半という短い時間でしたが、屋内、屋外のそれぞれの会場で、和気あいあいのなか行われました。

チェンソーの体験コーナーで、切った丸太を重そうに自家用車に運ぶ人、堆朱加工で製作した棒タイを早速首に下げて微笑んでいる人、小枝と松かさでハリネズミやキリンを完成させた人、紙飛行機の製作に没頭し飛距離に挑戦している人など、思い思いに興じていただきました。

又、プロ作家である講師の木像嵌画作品を購入している人や光の造形「行灯づくり」を部屋のインテリアとして活用したいという人など、楽しんでいただけたと思います。

体験いただいたことの中から、授業のヒントを見つけていただければ幸いです。

#### 参加者の一言

子供の気持ちになれた一時でした。

楽しい企画を計画してくださった旭川大会に感謝します。



### ●緑と光の中で 野外彫刻展・グリーンコンサート

今大会では授業をはじめ、旭川の取り組みをいろいろな角度から知っていただこうと、会場校の中庭に約30点の彫刻を展示しました。

これらの作品は毎年8月に行われる「彫刻の森」大会に出品予定の作品を配置したものです。素材も、木材の他、金属や発泡スチロールなど、その幅も広がってきています。表現も風の動きや光を取り入れるなど多様な展開となりました。

また、この会場では、明星中・東五条小両校の吹奏楽部、器楽クラブによるコンサートが行われ、暑さの中の一時、緑の木陰でさわやかな音色に耳を傾けていただきました。

#### 参加者の声

彫刻はアイディア豊かな作品が多く、見ていても楽しい。

昼食はゆっくりと演奏を聴く事ができ、暑さを忘れられました。すばらしい演奏に感謝!

#### 《終わりに》

今大会では、各地との研究交流をより深めたいとの本部・研究部の提案で、地区代表によるミニ交流集會が開かれました。新しい試みとして、すばらしい企画ですので、今後この交流の輪を広げながら研究を深め次期大会へとつなげていってほしいものです。

第44回釧路大会の成功を心からお祈りいたしますとともに、再会を楽しみにしております。釧路でまたお会いしましょう。

(文責 鳥本 捷夫)



## 感動した旭川大会

釧路市立柏木小学校長 坂下 敦子

造形教育の全道大会のために建てられたような校舎正面のモダンでユニークなデザイン・木のぬくもりのある温かい校舎が私たちを迎えてくれました。

廊下壁面に掲示されている版画や絵画などの数々の作品から、旭川造形連盟会員並びに先生方の授業づくりの確かさ・北国の大地にしっかり根を下ろしたたくましい児童生徒の姿が目に見えてきました。

大会主題「思いをあたため心はずませ創る喜びを」を支える新しい学力観に立つ授業の構想と創造的な展開を支える旭川理論の構築がしっかりなされており子供側に立ちそのよさや表現力を生かした授業づくりに真摯に取り組まれている先生方・造形連盟の会員、東五条小学校の校長先生や教職員の方々やPTA役員の方々が一体となり開催されたすばらしい大会でした。

窓から見える中庭には旭川造形連盟会員の学校の子供達の造形作品が真夏の緑に映え、造形広場でのチェーンソーを使った彫刻などと合わせて郷土に根ざしたユニークな造形活動など楽しく心に残り、充実感に満ちた研究会でした。

## たくさんの授業を見て

札幌市立緑丘小学校 宗像 宏子

学校の研究との関わりもあって、旭川での造形大会に参加させていただきました。旭川までは、久しぶりにJRを使って行ったのですが、電車の中では大学時代の同期の方に出会うなど思いがけないできごとからのスタートになりました。

一昨年の札幌大会では、記録という役割があって思うように授業を見ることができなかったのですが、今年はいろいろな授業を参観させていただきました。

オープン教室での授業は、広いスペースを有効に使っての授業でした。図工の授業をでは、どのような身辺材をどのように使うかが常に心にあるのが実態のため興味深く見させていただきました。牛乳パックは低学年からよく利用していましたが、4年生での身辺材を含めた利用のしかたを見せていただいたり、グループでつくるゲームは、全員の心合わせに楽しい活動ができているのに感心させられました。

公開授業というと、特別な授業を考えなければならないような気持ちになるのですが、カリキュラムの内容を工夫して考えることの大切さに改めて気づかせていただいたように思いました。

## 旭川大会に参加して

千歳市立末広小学校 井上 治子

今回、1時間の中で幾つもの授業を見せていただきました。造形遊びでは子どもたちが楽しそうに生き生きと活動していました。ただ、造形遊びというものが今までの図工科の活動とどのようにつながるのか、どう違うのか、まだ私の中にストーンと落ちない部分があります。でも学校の中であんな活動ができるゆったりとしたスペースは必要だと感じました。

午後は絵の分科会に参加したのですが、「上手すぎる絵」の危険に触れていた先生がいらっしゃいました。教師の思い入れが入りすぎているということでしょうか。また授業者を始め熱心な実践に感銘を受けました。特に「私の家」(高学年)は、ねばり強い子どもたちの様子に(もちろんそこまで育てあげた先生にも)感心しました。ただ、構想が練られすぎているというか、鮮度が落ちているような印象を受けたのは私だけでしょうか。また、廊下にはあってある写真画などもすばらしく、旭川の子どもたちは描写力が優れているなど感じました。

## 旭川大会に参加して

札幌市立澄川小学校 一色ひとみ

旭川での全道造形大会に参加し、旭川の小学生の作品にたくさん驚かされました。まず、絵の構図の確かさです。画面いっぱいにかっちり描かれた建物、大きくくっきりと描かれた人物、そしてその表情。それが陰影をつけた色使いでより重厚さを表していました。

版画でも、修学旅行が夢のある作品になっていました。作っていく過程でも子どもたちは楽しさを味わっていたのではないかと思います。

中庭に並んだ大作は、フクロウ指揮の小鳥のコーラス隊がベンチの前に座を占め、藤棚には新素材の虫がゆれ、カラカラと風見鶏が鳴り動き、日陰にはダックスフントの長椅子と、どれをとっても太陽の下でキラキラと輝き、その場にふさわしい顔をしていました。

中学生になると、遊びも大人っぽくなるようで、漢字の作画もあり、これはニヤニヤしたり感心したりして見ました。雨の、がしづくになったり、猫の田が猫の顔だったりという楽しい作品でした。こんな楽しい図工ができたらいのにと感じて会場を後にしました。

## 分科会「造形あそび」に参加して

札幌市立栄南小学校 川島 正夫

今回の旭川大会で札幌市立中央小学校の阿部宏行先生と深川市立深川小学校の渡辺貞之先生が提言者として参加される「造形あそび」の分科会をとても楽しみにしていました。お二人とも札幌と空知で精力的に実践を積み重ねておられる方々ですから、きっとためになる話が聞けるものと思っていたからです。

阿部先生は、子どもを「ひらめきタイプ」と「つみあげタイプ」に分け各々のよさをみとっていくという評価のあり方の提言がありました。みとり方の一例としてとても参考になりました。またスライドやビデオによる「造形あそび」の実践例は「試す活動」が保障されなければならないという先生の主張をわかりやすく表したものでした。

渡辺先生は、生活づくりのために、造形活動が生きていく実践例として「うさぎを飼うために」を発表して下さいました。話し合いの中で、この実践が生活科に入るのか、造形あそびに入るのかで多くの先生のお話があり、「造形あそび」を今一度考え直す良い場となりました。渡辺先生の「作品は子どもの心の中に」という言葉が今も心に残っています。

お二人の先生、分科会に参加された先生、ありがとうございました。

## 力強い旭川

札幌市立厚別北小学校 土肥 宏充

今年も、また、楽しみな造形大会の季節になりました。出発するときの肌寒い札幌に比べ、旭川は、例年の大会のような本当に夏らしい二日間を、私たちに与えてくれました。やはり夏の大会はこうでなければなりません。暑い日さしの中で、授業に、実践に、討議に熱く燃えなければなりません。

そして今回もまた、期待を裏切らない充実した素晴らしい二日間でした。一言でいうと、旭川の一生懸命さ、力強さがよく表れた大会であったと思います。とにかく、どれを取り上げても、その一つ一つが力のこもったものでした。授業はもちろん、展示作品である旭川市小中学生版画展の力作、幼稚園の子どもたちや児童生徒絵画展の力作、中庭に設けられた彫刻の森作品展の多彩な作品群など、旭川の積み上げられた確かな力をひしひしと感じ、大いに刺激を受けました。

夏休みの中で、人より、10も20も得をしたような、とても充実した研修をすることができました。

小・中プラスバンドによるグリーンコンサートや、また、運営に携わる方々からも、心のこもったたくさんのおもてなしを受けました。旭川の皆さん本当にご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。

## 一人一人を大切に

札幌市立石山中学校 奥野 郁男

台風が温帯性低気圧になって全国が雨、旭川市が晴れ30度近くという蒸し暑さの中、第43回全道造形教育研究大会が、きれいに整えられた東五条小学校で開催されました。思いをあたため、心はずませ、創る喜びを大会研究主題に授業公開を皮切りに進められました。

“愉快な仲間”（中学2、彫刻）の授業は明るく澄んだ声の畠山 勝先生が、粘土によるレリーフで生徒一人一人の主題ののって、地山の形を工夫し、厚みの変化を求める粗付けの展開をされました。

I子さんは、丁寧な作業でいすに座る友だちを

K男君は、大胆に粘土をのせる作業を

Mさんは細いスケッチのため地山から形を切り出すのに汗ばんでいました。

各生徒は自分のイメージを大切に、気持を作品に集中し目を輝かせていました。

新しい学力観に立脚した個を生かす授業の提示がされていました。“とにかく楽しくできることが第一です”という畠山先生の言葉が耳に残っています。





標津郡中標津町立若竹小学校  
前田 肇

### 1. 伝統的文化遺産としての版画文集【わかたけ】

本校の版画の特徴として、既に22年の歴史を刻んでいることではないかとおもいます。

もう、昔という言葉を使ってもいいほどの版画活動は当初の子どもたちの日々の素朴な感動を先生方全員で優しく受け止めてあげ、その発表を積み重ね作文へと発展させていきました。こどもの絵からそれを彫り込む形で版画へとつなげていった、言わばこどもの【語り】を彫り込み、大切な文化として残しながら、地域に広めることでした。「福寿草が咲いたよ。」「うさぎが子供産んだよ。」「いちごがなって、みんなで食べたよ。」と、言うような小さな感動から作文へとつなげ、これらのことから育つこどもの感性を版画へとつなげたものでありました。

本校は中標津町の西、カムイヌプリの裾野に広がる原野のなかにある小さな学校で以前は原始林に囲まれそのなかで四季を楽しみながらの学校生活がありました。大きな木に登り、野山を駆け巡り野花を摘み、蝶を追いかけるこどもたちの姿が見られました。

私たちは、このようなこどもの姿を現在でもこども自身財産として大切にしていくと共に触れ合いの時間を十分に確保し、更に、働きかける心や高める心を育てるためにも、山菜採り、農作業、飼育活動などを経てそだていく感性を蓄積しながら版画へとつなげこどもの成長として版に刻みこれまで一年一年集積した版画文集【わかたけ】として地域の人に配布し、文化の証しとして22年継続し現在に至っているところです。

### 2. 子ども一人一人の力が集積され楽しく、力強い版画になる。

私たちは、版画に至るまでのこどもの一人ひとりの教育を重要視しています。前述しましたように本校の版画は一人ひとりのこどもの素朴な感動を育て生きるうえでの力を蓄積しての創作活動です。

特に版画は単に思いつきのような、または、教材にあるからやるという安易な創作では惨めな作品となりがあってこどもに与えるダメージが大きいことがあります。単なる版遊びから版画作品としての創作活動にはかなりの隔たりがあるように思います。

こども自身の様々な物語りがあってこそ、こどもの意欲が高まり、しっかりとした線が描かれ、そして版に力強く、刻み込まれていくと信じています。

従って、私たち若竹小の職員は18人のこども一人ひとりの毎日の物語を大切に育てるために一人ひとりの目標と学習プランをもって《創る教育、育てる教育、生きる（生かす）教育》を通して日々の教育に励んでいます。

### 3. 版画の土台は作文

このようにきめ細かな私たちの指導と自然の中にとけこめる学校環境のもとで、こどもたちは何かを感じて作文に表現し、その作文を囲んで、教師もこどもたちもその作者の成長や感動を共感しながら更に情感を膨ませていくことをねらい【わかたけ集会】として設定（週1回）していきます。

すると、創造活動の中に感性、視覚が高まり、描写力の高まりははっきりと捕らえることができるようになり、やがては彫刻刀の走りにもそのことが現れることは驚きです。そして私たちはそこにこどもの成長を確かめることができるのです。



### 4. 北海道教育美術展に出品して10年

これまでこどもたちの作品はすべて標記の美術展に出品してきました。毎年、奨励賞、入選などの賞をいただいたこの積み上げもまた、こどもたちをはじめ地域にとっても文化価値を問う意味においても大切なことと押さえ、参加することに意義をもって出品しております。そして、校舎は美術館のようにこどもの創作作品が所せましと展示されております。

平成4年度には、全道へき地複式研究会会場を機会に100点あまりの作品を町公民館で版画20周年記念展覧会を開催し大勢の町民のかたがたから暖かいメッセージをいただきました。

## これからの時代を築く子供たちに

—美術教育を通して育てたい力—



北海道教育委員会生涯学習部

学校教育課 村瀬 千樫

### ○はじめに

世の中の動きがますます加速化され、先を見通すことや価値あることが何であるかなどを見分けることが一層難しくなっている現代、教育はこれまで以上に、人間として変わってはいけな本質的なものを保ち続けるための努力をしなければならないであろう。

### ○美術教育の在り方

このような時に、我々美術教育に携わっている者は、教師自身の生き方をはじめ、自分の持っている人間性、能力のすべてをかけ、歴史の先端を歩きながら、次の時代を築いていく子供たちが、美しいものを発見したり、ものを描いたり、つくったりすることを通して、様々な問題に対して、自分自身の力で考え、判断し、自分の個性を生かしながらそれらを解決していく力を身に付けていくことを支援していかなければならない。

また、教師は美術の授業の中で、子供たちが造形活動を通して、自分を見詰め、伸ばし、高め、深め、自己を生かすために懸命に努力することを願い、一人一人の子供の目、手、耳、頭、心等と一体となって歩む心を持つことが大切であると考えます。

### ○美術教育で身に付けたい関心、意欲、態度、能力、生き方など

美術の目標は、授業を通して造形的な創造活動の能力を伸ばすことである。これを具体的な力としてあげるとしたらおよそ次のようなものが考えられるであろう。

[造形活動に向かう力として]

- ・創造的に・意欲的に・集中して・誠実に・根気強く
- ・主体的に・自発的に・緻密さ、信頼関係等

[造形活動を行う力として]

- ・工夫し・想像を広め、思考を深め・判断し・企画し
- ・計画し・伝達し・発見し・考えを練り、観察等

[造形活動を通して付ける力として]

- ・知的理解し・創造的な技能を・造形感覚を・創造的な表現力・学び方・直観力・高め合い・情操等

[鑑賞活動を通して付ける力として]

- ・成就感をもち・作品を感じ、味わう心・愛好する態度・あこがれ・崇高さ・友達のよさ・芸術の質等
- [一人一人の生き方を身に付ける力として]

- ・生活の中に生かす・自分の生き方を向上させる
- ・生きる自信持つ・生きる喜びを持つ・人間関係を良好にする・自立していく・自己実現に向けて励む力・美を求める心・優しさ・温かさ・打ち勝つ力等

このように、美術教育は造形活動を通して、自分をふりかえることや美しいものを発見する力、本当のものを見分ける力、新しいものをつくり出す力、応用していく力、粘り強く追求していく力、手を使うことによる体験のすばらしさを味わう力、生活の中に生かし、自分の生き方を向上させる力などこれからの時代を担うための様々な資質を、現代の子供たちに身に付けることが求められている。また、これらにかかわり子供自身の素直な思いを十分表出できた作品であるかどうかは、教師の人間性や一人一人の子供とのかかわり方によるともいわれていることを忘れてはならない。

### ○これからの授業の視点

これから一層求められる図画工作、美術の授業の在り方としては、

- ・次の授業、先生との出会いが楽しみな授業
- ・作品の優劣ではなく、失敗を恐れず自分の考えや表現が自由に表出でき、しかも、教師や友達との中で価値を高めていけるような授業
- ・自分の目、手、頭、心などが最大限に生かされる授業
- ・自分がいることにより、教師が喜び、期待してくれるなど教師の在り方が感じられる授業
- ・自分の生活に応用し、自らの環境を高めていける授業
- ・友達との中で相互に活動したり、鑑賞したりできる温かな雰囲気のある授業

などが考えられ、いずれにしても教師の人間理解が大きく影響するものとなると考える。

### ○おわりに

素早く、効率よく生きることが大切ではなく、時間をかけて、じっくり作品を制(製)作り、その作品を生み出す過程の誠実な姿の中で、意識的、無意識的に生きることを実感し、自らの生き方を学び、教師はそれらに自分の生き方を重ね、支援していく、そんな美術教育の在り方が求められているのではないだろうか。